

制作概要

和服が二次元で構成されることに対し、洋服は三次元で構成される。2003年9月20日「源流を着る、舞う、奏でる」-オペラに行くとき着る服をテーマに神戸ジーベックホールで公演を開催する機会を得て、改めて夜会服の歴史やデザイン、素材について考察した。日本では明治の鹿鳴館スタイルがその源になっている。いち早く洋装を取り入れたのは皇族や上流階級の婦人たちで、庶民の洋装化が一般的になったのは第二次大戦後を待たねばならない。夜会服（イブニングドレス＝正礼装）を着てオペラに行くというライフスタイルはまだ日本では非日常的であるが、経済的に満たされた現代のライフスタイルに文化を高揚させるために、憧れでもあり、ゆとりを持った時間と場所を得た時、着てみたいスタイルとしてデザイン制作を続けてきた。

第72回NDK日本デザイン文化協会ファッションショーの出品作品は「オリンピックカラーで彩るファッションの競演」をメインテーマに可憐な漆黒の世界から「追憶の彼方」をコンセプトにデザインしたイブニングドレスを制作した。黒を基調にうす紫をアクセントカラーにしたフリルをスパイラルさせることにより、追憶の彼方へいざなうイメージを表現した。シンプルで個性的な、エレガンスなデザインへのこだわりを表現するには黒はシンプル、モダン、ゴージャス、エレガンス、大人のなどデザイン素材のコーディネートにより様々な表情を表してくれる。黒への挑戦はまだまだ続く私の研究課題である。

橘 喬子

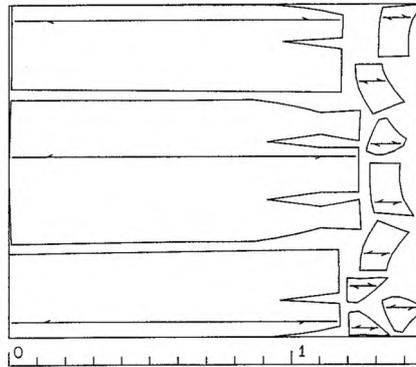
「追憶の彼方」

イブニングドレス

フェステバルホール（中之島）

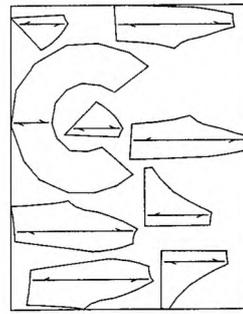


パターンマーキング：
サテンしわ加工のスパンコール地



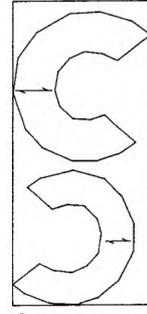
生地巾=1.200m 用尺=1.463m

オーガンジー黒



生地巾=1.100m 用尺=0.847m

オーガンジー紫



生地巾=1.100m 用尺=0.487m

デザイン構想

ハイカラー、ビスチェ風切り替えのシフトロングドレス。前身頃中央は深く開け、スカートの前中央はスリットさせ、その間をオープンファスナーで明きにした。前明きの部分とスカートの脇線に沿って、黒1枚、うす紫2枚のフリルを挟んだ。ラグランスリーブは袖山線でスリットさせ、後身頃切り替え中央に半円のトレーンをつけた。前身頃にはラインストーンをつけ、そのラインを強調した。やさしさと優雅でエレガントなイブニングドレスとしてデザインした。素材の持つ透明感と不透明で華やかな素材とのコントラストを生かすデザインを試みた。

制作日程

- 1) 6月24日(木) ショーテーマ、演出説明会、モデル選定
- 2) 7月16日(金) デザイン画締め切り
- 3) 8月5日(木) モデル仮縫い点検
- 4) 8月5日(木) 素材選択、購入
- 5) 8月16日(月)~9月9日(木) パターン修正、裁断、制作
- 6) 9月10日(金) 衣装合わせ、リハーサル
- 7) 9月12日(日) 作品搬入
- 8) 9月13日(月) 舞台リハーサル、ショー本番11時・14時2回公演

使用素材：オーガンジー、サテンしわ加工のスパンコール地、ラインストーン、芯地
アクセサリ：ネックレス、イヤリング

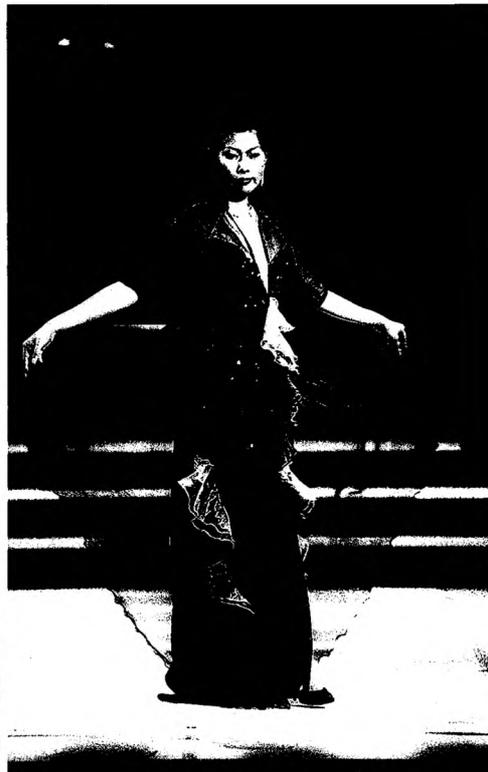
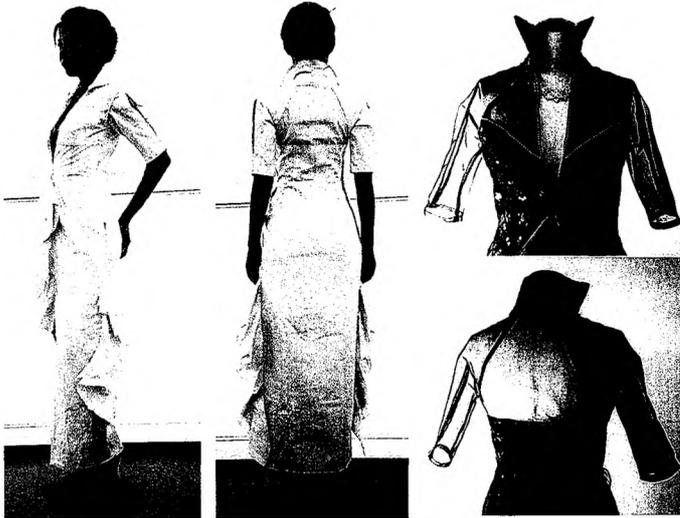
パターンマーキング：モデルサイズに合わせ、シーティングを使用し、ドレーピング（立体裁断）によりパターン制作を行った。スパンコール地が2m着分しかなかったため、切り替え線を活用した。ラグランスリーブのカーブと身頃のカーブが美しく見えるよう、またフリルの回転する角度に試行錯誤した。

仮縫点検：モデルに試着させ、デザインと寸法を確認した。

両脇のウェスト寸法を1.5cmずつ詰め、スカート丈を10cm長くし、床上がり寸法を直すことでバランスを検討にした。胸明き、スカートのスリット位置、袖丈、袖幅などは丁度良かった。

縫製のポイント：

- 1) サテンしわ加工のスパンコール地は9番ミシン針を使用した。意外と縫いやすくアイロンも利いたので幸いした。但しこれだけのロング丈をすっきりストレートに見せるため、全面にソフトな芯地を貼ってから裁断し、縫製した。
- 2) オーガンジーは透ける素材であるため、縫い代の始末を思案したが、ラグランスリーブであるため、ロックミシンで始末することにした。
- 3) 前後切り替え線の縫い代は透けないサテンしわ加工スパンコール地の方に倒し、まつり縫いで止めることにより、ラインをすっきり見せるようにした。
- 4) 衿はハイネックがしっかり立つように表・裏衿ともに張りのある厚手の芯地を貼り、衿先をやや鋭角にした。
- 5) オーガンジーのフリルと後のトレーンは巻きロックで始末し、その糸調子具合でフリルのリズム感を強調させた。





橘 喬子
「追憶の彼方」
第22回NDKファッションショー
2014年9月13日 電子図書館サービス